



HIV 対策が危機に追い込まれる中、UNAIDS は 2026 年に落日を迎えてはられない

UNAIDS プログラム調整理事会の NGO 代表団として、私たちは UN80 イニシアティブに関する国連事務総長報告書 に対し、深い憂慮を表明します。報告書は「2026 年末までに UNAIDS が落日を迎える」ことを計画しています。

この声明は、HIV 陽性者、HIV に影響を受けている人たち、HIV 感染のリスクに直面する人々たち、およびコミュニティ、そしてエイズ終結という世界目標の達成に向けて活動するコミュニティ主導の組織や市民社会組織に対し、UNAIDS の終幕に向かう計画に断固として反対することを呼びかけるものです。

UNAIDS の存続は、単に組織を守るためではありません。HIV 対策の危機に直面しているいま、大胆なリーダーシップを保持し、連携を確保することなのです。エイズパンデミックの影響を最も強く受けているコミュニティ、例えばゲイ男性など男性とセックスをする男性、トランスジェンダー、セックスワーカー、薬物使用者、刑務所やその他の閉鎖的な環境にいる人たちが、ますます直接的な攻撃にさらされる時代にあって、この人たちの健康と権利の確保に向けた活動を守る目的もあります。

今年（2025 年）に入って、世界の HIV 対策資金が大幅に削減され、これを受けて UNAIDS は、今後 4 年間でエイズ関連の疾患による死亡者数がこれまでの予測より 420 万人増加し、親を失う子供が 300 万人増え、さらに新規 HIV 感染者が 660 万人増加することになると警告しています。この新たな緊急事態に対し、

UNAIDS は急遽、運営モデルの見直しを行い、当面の課題に直接対応できるようにする新たな世界エイズ戦略の協議に入りました。

いま UNAIDS の存続をはかることは人の命を救うことに他なりません。廃止の提案は極めて危険であり、2030 年までのエイズ終結という世界目標への裏切りでもあります。HIV 陽性者および HIV の影響を受けている何百万もの人たち、そして 2030 年までにエイズを終結させるために日々闘っているコミュニティに対する約束を損なうものです。私たちは UNAIDS 理事会でも代表団として私たちの立場を正式に代表しており、その意見は、国連の共同プログラムの将来に関する決定に反映されなければなりません。したがって、私たちは以下のことを表明します。

1. 国連事務総長に対し、私たち、およびより広範な市民社会のメンバーと会談の機会を設け、私たちの見解を直接聞くことを要請する。
2. PCB（プログラム調整理事会）の全加盟国とオブザーバーに対し、この拙速極まりない閉鎖構想に積極的に反対するよう強く求める。

事務総長に対しては今回の提案が持続可能な開発目標、とりわけ保健分野の目標 3、および不平等の削減に関する目標 10 の達成を阻む危険があることを改めて強調しておきます。UNAIDS は、新規 HIV 感染がなくなり、命を救うための HIV 治療が必要とする人すべてに行き渡り、HIV 陽性者および HIV の影響を受けているすべての人の人権が完全に保障されるまで存続しなければなりません。いかなる組織再編も、HIV 対策の強化を目指すものであり、人権とコミュニティのリーダーシップ、そして説明責任を弱めるものであってはならないのです。

（仮訳：公益財団法人エイズ予防財団）